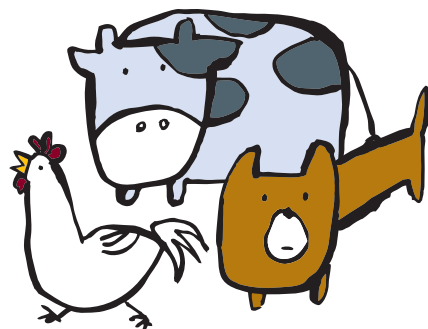


もう少し詳しく動物由来感染症を知りましょう

動物由来感染症の伝播^{でんぱ}

病原体が感染してうつることを「伝播^{でんぱ}」といいます。動物由来感染症における伝播とは病原体が動物から人間にうつるまでのすべての途中経過をあらわします。病原体の伝播^{でんぱ}は感染源である動物から直接人間にうつる直接伝播^{でんぱ}と、感染源である動物と人間との間に何らかの媒介物が存在する間接伝播^{でんぱ}の、大きく2つに分けることができます。さらに間接伝播^{でんぱ}は感染動物体内の病原体を節足動物等(ベクター)が運んで人間にうつすもの、動物の体から出た病原体が周囲の環境(水や土等)を介して人間にうつすもの、および人間が利用する畜産物等の食品が病原体で汚染されている場合に分けて考えることができます。



伝播経路 ^{でんぱ}	具体例	動物由来感染症の例
直接伝播 ^{でんぱ}	咬まれる ひっかかれる 触れる(排せつ物等含む)	狂犬病、カプノサイトファーガ・カニモルサス感染症、 コリネバクテリウム・ウルセランス感染症、パストツレラ症 猫ひっかき病 トキソプラズマ症、回虫症、エキノコックス症、クリプトコックス症、 オウム病、ブルセラ症、皮膚糸状菌症、サルモネラ症
間接伝播 ^{でんぱ}	ベクター媒介	ダニ類 蚊 ノミ ハエ クリミア・コンゴ出血熱、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、つつが虫病、SFTS 日本脳炎、ウエストナイル熱、デング熱、チクングニア熱 ペスト 腸管出血性大腸菌感染症
	環境媒介	水系汚染 土壌汚染 クリプトスポリジウム症、レプトスピラ症 炭疽、破傷風
	動物性食品媒介	肉 鶏卵 乳製品 魚肉 腸管出血性大腸菌感染症、E型肝炎、カンピロバクター症、 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD) サルモネラ症 牛結核、Q熱、ブルセラ症 アニサキス症

動物の各カテゴリーと動物由来感染症との関連

動物を生活環境により分類した場合、それぞれのカテゴリー(群)と動物由来感染症との関連性が見い出せます。

カテゴリー(群)	動物由来感染症との関連
ペット(伴侶動物)	本来、犬や猫からうつることは少ないが、病原体は持っている。人と密接に触れ合うことで感染することがある。
野生動物	どのような病原体を持っているか不明なことが多い。 重篤な感染症の病原体を持っている可能性がある。
家畜	畜産品等による食中毒の原因となる場合がある。 衛生対策の徹底で予防可能な感染症が多い。
展示動物	人と動物とが触れ合える施設では、不特定多数の人が接触することから、動物由来感染症に配慮した対策が重要。

動物由来感染症の病原体

動物由来感染症の原因となる病原体には、大きいものでは数センチ(時には数メートル)もある寄生虫から電子顕微鏡を用いなければ見ることのできないウイルスまで、様々な病原体があります。また最近では従来の微生物の概念とは異なるプリオンという異常タンパク質までもが動物由来感染症の原因となることが分かっています。

病原体	引き起こされる感染症の例
ウイルス	狂犬病、日本脳炎、ウエストナイル熱、デング熱、チクングニア熱、ダニ媒介脳炎、E型肝炎、SFTS
リケッチア・コクシエラ・クラミジア	Q熱、オウム病、日本紅斑熱、つつが虫病
細菌	ペスト、サルモネラ症、レプトスピラ症、猫ひっかき病、ブルセラ症、カプノサイトファーガ・カニモルサス感染症、コリネバクテリウム・ウルセランス感染症、カンピロバクター症、炭疽
真菌	皮膚糸状菌症、クリプトコックス症
寄生虫	トキソプラズマ症、回虫症、エキノコックス症、クリプトスポリジウム症、アニサキス症
プリオン	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)